



若杉 玲子 わかさぎ れいこ

熊本高等専門学校
生物化学システム工学科 講師
研究分野 吸着技術、化学工学

熊本大学工学部応用化学科卒業
熊本大学大学院自然科学研究科修了
八代高専生物工学科助教
熊本高専生物化学システム工学科講師（現在）

自分のペースで やりたい研究ができます

教員一人一人が独立しているため、自分一人でも回さなければなりません。それが逆にやりがいにもつながります。初めはわからないことだらけですが、同僚の先生や学生とコミュニケーションを取りながら経験を積んできました。

くつか応募しましたがすぐには決まらず、学位取得後2年ほどはアルバイトなどをしながら就職活動をしました。研究職では任期付のものは多くありましたが、家庭もあったため正職に就くことを目指して粘り強く就職活動をつづけました。当時の八代高専に専門である「化学工学」の教員公募が出たため応募したところ、採用していただき今に至っています。

高専の教員になっていかがですか？

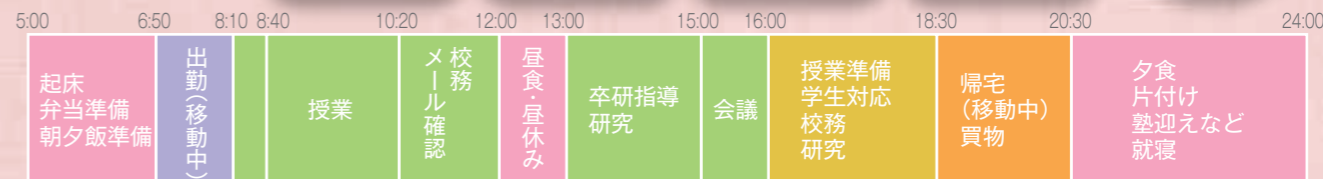
高専というのはNHKのロボコンで聞いた程度で、どのような学校なのかもそれまで全然知りませんでした。また、大学課程で教育実習などもしたことはありませんでしたが、高専教員として専門の授業をするのだろうという程度で思っていました。しかし、着任してみると、シラバスや授業準備などどうしたらいいかわからず、当時の学科長の先生にずいぶん助けていただきました。高校であれば学習指導要領等のガイドラインがあるのですが、高専にはそういったものがなく、科目の教育目標とクラスのレベルを踏まえ、何をどこまで教えればよいのか、理解度をどうやって図ればいいのか、などすべてにおいて最初は試行錯誤でとても困りました。

また、コミュニケーションの取り方の工夫や大切さについて、改めて実感しています。年代の違う学生とは、こちらの感覚と受け取り方が違ったり、伝え方によっては十分伝わらなかったりと一喜一憂の毎日です。また、先輩・同僚の先生方などの情報交換もとても大切で、いろんな考え方や価値観を学ぶことや何気ない会話を大切に、コミュニケーション力を増す努力を続けています。

どのような仕事をしていらっしゃいますか？

教員の仕事として、授業や部活指導、担任など学生と直接関係する仕事が多分ですが、その他にも学校運営に関わる委員などがあります。これまで、広報委員、学生委員、教務委員などをやりました。現在は、学生募集

研究生活の ひとコマ



室委員をしており、中学校訪問で学校紹介などを行っています。

また、1～2ヶ月に1度ほど、寮の当直があります。女性教員は、女子寮の当直をします。熊本高専八代キャンパスは比較的女性教員が多いので、女子寮の当直は女性教員で回っています。

その他には、クラブ顧問があります。高専3年生までは、高校総体にも出場できるため、学生たちも一生懸命にやっており、そのためこちらにも熱が入り、張り切ってやっています。これまでにバスケットボール部やハンドボール部の顧問をしました。土日の対応もありますが、性格がアクティブなので、試合などの引率はそれほど負担には感じません。学生が一生懸命になって取り組んでくれている姿を見ると、こちらもうれしくなり、是非結果を残してほしいなど応援したくなります。

研究活動では、個人レベルのものから、共同研究、また卒業研究なども行っています。

どのような日常生活ですか？

子供が4人いるので、バタバタの毎日です。私自身も通勤に1時間～1時間30分ほど時間がかかるため、7時には家を出なければならず、子供たちの世話は掛け声だけで、朝と夜のご飯だけ準備をして先に家を出ます。毎日学校の仕事に追われていて、自分の子供たちのことが後回しになっています。ですので、子供の学校の先生から忘れ物などのご指摘をいただくことも多々あります。子供たちには「自分の事は自分で」、「自己管理」をお願いして頑張ってもらっています。帰宅が20時を過ぎるため、あまり一緒に過ごせていないので、家にいるときはひたすら子供たちとの会話に努めます。また、お腹が空かないように、食べ物だけは冷蔵庫の中になくさん詰めておくようにしています。まあ、食べさせておけばとりあえず何とか育つだろうという感じでしょうか……。

家の中は、……正直にお話すれば散らかり放題です。

泥棒が入っても分かりません。毎日の家事を全て終える余裕はないので、必要最低限だけやって残りは溜めてやるようにしています。そうでないとオーバーワークになってしまうので、「1日は24時間」を言い訳に、家事は出来るときにやれるところだけをやっています。秘訣は、食器も洋服も2、3日洗えなくても大丈夫な量を用意しておくことです。休日には、好きなバスケットボールの審判に行ったりして、気分転換をしています。

Interview

高専教員を目指す人への メッセージ

- 高専は職場的に大変恵まれていると思います。クラブ顧問や委員会などありますが、ある程度時間的な融通もききます。研究の環境は、大学と比べると労力、時間、資金、設備など及ばないことが沢山ありますが、高専では一人一人の教員が独立しており、研究内容は自分のペースでやりたいことを楽しんで出来ると思います。独立している分、自分で研究を回していかなければなりません、それもやりがいのあることでしょう。
- 高専教員は、研究だけでなく教育がかなりの比重を占めますが、意識の高い学生と共に学び、教育指導していくことは、時に大変なこともあります。とても充実できる仕事です。研究と教育の双方に対して情熱が持てる人には非常に適している職場だと思いますので、是非、候補の一つとして検討していただきたいなと思います。